

介護相談員の声

「小さな幸せ」

介護相談員は、介護保険施設等を訪問し、利用者や家族から介護サービスに関する疑問や不満などを聞き、サービスを提供している施設との間に立って、問題解決に向けた手助けをする役目をしています。

私はこれまでに特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、そして認知症の高齢者対象のグループホームを訪問し、そこでお暮らしの方々とお会いしてきました。

初春の暖かい日、ある特別養護老人ホームを訪問した際の出来事です。

園芸倶楽部の方々が、トマトやきゅうり、さつま芋の苗を植えておられました。

この施設には、書道・手芸・生花・陶芸・園芸とさまざまなクラブがあり、自由参加のクラブ活動はかなりの人気を呼んでいます。

その園芸倶楽部の参加者の中に、Aさんがいました。苗がすぐ差し込めるように準備されたプランターに嬉しそうに苗を植えて、小さなじょうろで水をやり、満足そうに一息ついて「早く大きくなれよ」とつぶやかれたAさん。小さな苗が大きく成長するのを待つ心の中に、小さな幸せが訪れた瞬間でした。

Aさんは私が訪問するといつも「おー おー」と手を振って迎えてくれます。一向に私の名前は覚えてくれないのですが…いつも決まって話されるのは、喫茶店を経営されていた時のお話。彼の得意料理のレシピを聞き、「おいしそうね。食べたいわ」と言うのにっこり微笑んで「今度家に帰ったら作るよ」とおっしゃる。

何らかの障害でご家族と共に日常生活を送れなくなった利用者は、住み慣れた我が家や地域への思いが忘れがたく、いつも郷愁の念に駆られておられるようです。

この施設には、フロアの一隅にレトロ調の喫茶室がしつらえられています。昭和の時代を懐かしむように、火鉢や鉄瓶、桐のタンスや着物掛け、昔のおもちゃがレイアウトされ、面会に来られたご家族達と昔の駄菓子をつまみながらコーヒーを味わうという喫茶室です。

利用者は若い頃に行った町の喫茶店に居るように感じるのでしょうか。ほんの小さな幸せがここにも転がっていました。

苗を植えた後の活動は水遣りです。小さなじょうろで水をやる。ただそれだけの事です。職員が肥料を与えたり、支柱や副木を立てたりして世話をしているのです。

ところが、収穫の頃、しょんぼりしているAさんを見つけました。「トマトもな、きゅうりもな、出来たんや。明日獲ろうと思ってたんや。それなのに、猿に盗られてしもた」周囲が山という地形から猿の出没は聞いていましたが、こんな所で災難に遭うとは驚きました。

「猿に盗られんように網かけてもらおうわ。猿も美味しかったやろう」と自分を元氣付けるように言って笑われたAさん。実った作物を食材に、利用者の仲間と味わえたであろう幸せ。にっこり微笑むAさんの笑顔。施設を利用する一人ひとりに小さな幸せが舞い込んできますようにと願ってやみません。

京都市介護相談員 生谷 啓子